

# 湖南省博物館訪問記

名和 敏光

2008年9月10日午後四時、事前の陳松長湖南大学教授の手配により、谷中先生、小寺先生、曹峰先生と名和の四名で湖南省博物館（註1）に喻燕姣研究員を訪ねた。

通用口から喻燕姣女史に連絡を取り、迎えに来て頂いた。現在、湖南省博物館は無料開放されているが、9月5日～11月16日の間、「古典與唯美——西蒙基金會藏歐洲19世紀繪畫精品展」（註2）と題して特別展が行われており、別に入場券が必要であったため、喻燕姣女史がわざわざ入り口まで迎えに来て下さったのである。私は2004年8月に長沙で行われた「紀念馬王堆漢墓發掘三十周年國際學術討論會」でお会いしており、喻燕姣女史はその時のことをよく覚えて下さった。

喻燕姣女史に関して簡単に紹介すると、現在の肩書きとしては、湖南省博物館研究員、湖南省博物館科研辦公室副主任、《湖南省博物館館刊》編輯、湖南省文物鑒定委員會鑒定專家組成員などである。著作としては、陳松長編著・鄭曙斌・喻燕姣協編『馬王堆簡帛文字編』（2001年6月、北京文物出版社）、「地下図書館—馬王堆出土の帛書と竹簡について—」（湖南省出土古代文物展『古代中国の文字と至宝』所収、2004年9月、毎日新聞社、横田恭三（跡見学園女子大学文学部人文学科教授）翻訳）、「湖南省博物館珍藏的王夫之三件手稿」（『文物』1993年第2期）などがある。

我々の今回の訪問の目的（馬王堆漢墓簡帛現物の閲覧）を伝えると、上司の許可が必要とのことで、先ず館内の馬王堆漢墓簡帛の展示ブースへ案内して下さい、展示を見学してお待ち下さいと指示された。

現在、湖南省博物館は館内の展示品の撮影が許可されている。ただし、展示物を傷めるとの理由で、フラッシュを使用しての撮影は許可されていない。

馬王堆漢墓簡帛・竹簡の展示品は、二枚のT形帛画（一枚は北京首都博物館（註3）での特別展「中国記憶——5000年文明瑰宝展」（註4）へ貸出中。）のほか、「合陰陽」「十問」「天下至道談」「太一將行圖」「五星占」「春秋事語」「陰陽五行（甲篇）」「天文氣象雜占」「養生方」「足臂十一脈灸經」「五十二病方」「周易」「城邑圖」などである。

30分程観覧した後、喻燕姣女史がもどって来られ、出版のため（註5）に撮り直した写真があるので、それであれば手に取って見ることは可能であるとのことなので、写真を見せてもらうこととした。

写真と言っても、各篇をそれぞれ大型の模造紙に貼り付けて整理してあるもので、非常に鮮明で素晴らしいものであった。

谷中先生は特に「十大經」に興味を持たれ、その称呼問題（「十大經」か「十六經」か）に関して篇名の部分をじっくり見られていた。小寺先生は全体的に觀察され、曹峰先生は「九主」「九主圖」をじっくり見られていた。名和は、現在未だ部分的にしか公表されていない「陰陽五行（甲篇）」「陰陽五行（乙篇）」「出行占」をじっくり見ることができた。ほぼ一時間の閲覧の後、喻燕姣女史の研究室に伺い中国茶をご馳走になり、それから湖南省博物館を離れることとなった。今回、約二時間の訪問であったが、非常に有意

義なものであった。

実は、名和以外の三名の先生方は今回写真版を見せて頂き非常に満足していたのであるが、名和は「陰陽五行（甲篇）」「陰陽五行（乙篇）」「出行占」の写真をもう少し見たく、次の日（11日）に喻燕姣女史に連絡を取り、再度、写真を見せてもらいたい旨お伝えしたところ、快諾を得た。そこで、12日午前九時から、名和のみ湖南省博物館を再訪し、「陰陽五行（甲篇）」「陰陽五行（乙篇）」「出行占」の写真を見せて頂いた。

幸いこれらの譯註の底稿データがパソコンに入っていたので、それをプリントアウトして持って行き対校することができた。

喻燕姣女史は自分の仕事があるにも関わらず、自身の研究室に写真を準備しておいて下さり、そこで閲覧させて頂いた。午前三時間、午後二時間、じっくり見せて頂いた上に、湖南省博物館の館員用食堂で昼食までご馳走して下さいました。

今回の訪問では喻燕姣女史に非常にお世話になり、訪問団員全員、とても感謝している。記して謝意を表す次第である。

註

- 1、[http://www.hnmuseum.com/hnmuseum/index\\_gb.jsp](http://www.hnmuseum.com/hnmuseum/index_gb.jsp)
- 2、[http://www.hnmuseum.com/hnmuseum/whatson/European\\_Paintings/intro.htm](http://www.hnmuseum.com/hnmuseum/whatson/European_Paintings/intro.htm)
- 3、<http://www.capitalmuseum.org.cn/>
- 4、[http://www.capitalmuseum.org.cn/Contents/Channel\\_291/2008/0703/9838/content\\_9838.htm](http://www.capitalmuseum.org.cn/Contents/Channel_291/2008/0703/9838/content_9838.htm)
- 5、「馬王堆漢墓簡帛」の新たな出版計画は、

「長沙馬王堆漢墓簡帛集成」2011年に出版。中国の考古学史上で大きな発見となった馬王堆漢墓（湖南省長沙市）の文献資料が、専門家の整理を受けて出版されることとなった。復旦大学出土文献古代文字研究センター・湖南省博物館・中華書局は4日、「長沙馬王堆漢墓簡帛集成」の共同編集・出版に向けた協定の調印式典を復旦大学で開催した。遺跡から出土した絹布・木・竹に書かれていた資料を整理し、2011年に出版する計画だ。中華書局から出版される同書は少なくとも6巻に分かれ、上等な装丁となる。書中には復旦大学の専門家による解説や注釈のほか、湖南省博物館の提供による帛書（文字の書かれた絹布）のカラー写真も収録される。初公開となる資料も少なくない。

（「人民網日本語版」2008年9月5日）

ということである。